

## 令和2年度第2回浜松市美術館協議会会議録

1 開催日時 令和2年12月11日（金） 午後2時から午後3時

2 開催場所 浜松市美術館 2階講座室

3 出席状況

（出席委員 6人）

委員 村松 厚                      委員 片桐 弥生                      委員 齊藤 昌子

委員 内山 正己                      委員 市川 浩教                      委員 沖村 清美

（欠席委員 2人）

（出席者の職氏名）

市民部文化振興担当部長              中村 公彦                      浜松市美術館長                      飯室 仁志

浜松市美術館長補佐                      高山 和也                      秋野不矩美術館長                      吉川 利行

主幹                                      石田 博基

4 傍聴者 0人（一部非公開）

5 議事内容 審議事項  
(1) 浜松市美術館外部評価について  
(2) 美術館運営について（非公開）

6 会議録作成者 美術館美術振興グループ 石田博基

7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音有

8 会議録

- 1 開会 (高山浜松市美術館長補佐)
- 2 浜松市美術館協議会会長あいさつ (村松委員 (会長職務代理))
- 3 浜松市文化振興担当部長あいさつ (中村部長)

#### 4 議題

##### 審議事項

- (1) 浜松市美術館外部評価について
- (2) 美術館運営について  
(事務局 飯室館長から議題資料に基づき説明)

##### (1) 浜松市美術館外部評価について

村松委員：ウェブによる情報発信について、このコロナ禍の中でウェブにより細かく内容を伝えているが、来られない人のためだけではなく、アーカイブという意味も含めて充実していただきたい。展示会ではじっくり見れないものをウェブではより深く見ることができる。著作権の問題で色々あるがより充実していただきたい。

内山委員：浜松市のHPから入っていくと、階層を経て中々かたどり着けない人もいる。浜松市美術館としてHPを独自につくったらどうか？

飯室館長：HPに関しては今までずっと課題になっている。直接検索もできるが、市のフォーマットの関係もあり、格好よく出来ていない。独自に作れないわけではないが経費が掛かる。

片桐委員：今回の展覧会ではHPに展示作品リストが掲載されるようになってよかった。SNS等で若い人を呼び込むように工夫するのはいいが、コアなファンのためにもHPの基本情報をもう少し濃くしてほしい。

市川委員：お客さんとしても著作権とか問題があるのか？館内に流している動画もSNSで一部流したりしたら集客につながるのではないかと？

飯室館長：著作権については没後70年というルールがある。浮世絵展や仲山計介展は全て撮影フリーだったが、中にはそうはいかない作家もいるため注意しなければならない。PR動画はSNS等で発信したことがある。

村松委員：著作権・所有権を勉強する必要がある。公開できるものは公開して、それにより何倍にもなって拡散されることになるため、やる価値はある。

齋藤委員：こういうコロナのときこそ、来れない人のためにアウトリーチ、特に収蔵品については職員が作品を熟知しているため、小中学校へ行ってレクチャーするとよい。

飯室館長：今後、座学として持ち出すことも考えている。

市川委員：マスクをしていないお客様は入場拒否できるのか？

飯室館長：入口に表示はしているが、従ってもらえない場合もある。公立で中には義務化しているところもあるが、浜松市では完全に排除していない。

吉川館長：マスク着用は入口に表示して、忘れた人にはおしゃべり控えるようお願いしている。入場制限は夏の展覧会時に行った。スリッパがあるのでそれに

より人数を把握し制限をした。

飯室館長：期日時間指定入場券への動きが全国的にある。夏の展覧会は必要になるのではと考えている。実行委員会形式の展覧会についてはせめて土日だけでも期日時間指定の入場券導入について検討していきたい。

秋の展覧会は入場制限ぎりぎりまでいったが制限はしなかった。

村松委員：ネットを使えば予約が簡単だが、それが使えない高齢者などに対して救済をお願いしたい。

片桐委員：当日券分として何枚か用意しておくとかやってる所もあるが。

齋藤委員：ジブリの森美術館などがずいぶん前からそのようにやっている。今後はそういうのが当たり前になってくると思うが、ふらっと寄っていくのが出来なくなるのが残念。

飯室館長：昨年の木梨展のような、外で1時間も待たせて気分を悪くさせるようなことは避けたい。

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	A
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【上村松園展】 館独自の企画である点、国指定重要文化財を含む優品を多く出品できた点は、評価できる。下絵や素描、松園が参考にした作品等の展示も興味深かった。</p>	
改善すべき点	
<p>【上村松園展】 展示スペースの問題もあるかと思うが、せっかくの作品を生かし切れていない部分も感じた。展示作品数や展示方法、キャプションの内容等により工夫が必要であろう。</p>	
2. 教育普及活動について	
改善すべき点	
<p>【ギャラリートークについて】 ギャラリートークについては、このコロナ禍でギャラリートーク等をホームページ上に公開し視聴できるようにしている美術館・博物館がいくつかあるので、それらも参考にしてほしい。ネット上に公開するには様々な権利関係もあると思うので、その点は注意が必要である。</p>	
3. その他施設等について	
改善すべき点	
<p>SNSを活用した情報拡散も必要とは思いますが、それ以前にホームページの基本情報を充実してほしい。展覧会の展示構成やどのような作品が出品されるのか作品リストを掲載するなど、チラシ以上の情報が得られるようにしてほしい。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	A
1. 展覧会について	
評価する点	
<b>【堂本印象展】</b> 堂本印象美術館、京都国立近代美術館から優品を借用できた点。	
改善すべき点	
<b>【堂本印象展】</b> 近年では堂本印象という名前だけでは(特に浜松近辺では)集客は難しくなっているのかもしれない。より効果的な広報活動が必要であろう。	
2. 教育普及活動について	
改善すべき点	
<b>【ワークショップ】</b> せっかくのワークショップの参加人数が少なかったのが残念である。こちらの広報活動等も工夫が必要であろう。	
3. その他施設等について	
評価する点	
施設については、改修工事が無事終了した点。	
改善すべき点	
展覧会等の情報発信については、展覧会の内容などもっと詳しい情報をホームページに記載してほしい。どのような作品が出品されるのか、画像も交えて紹介してほしい。	

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	B
1. 展覧会について	
評価する点	
<p><b>【木梨憲武展】</b>                      タレントの個展のということで、気取らない特別展であったと思う。常に美術館に足を運ばない人達にも興味ある展覧会となり、多くの入場者数を稼ぐことが出来た。</p>	
<p><b>【大城貞夫版画展・スーパーリアルワールド展】</b>                      いずれも浜松ゆかりの作家で、浜松市美術館ならではの企画であり意義深い。作家を知らない市民に郷土の作家の存在を知ってもらえて地域の芸術の向上にも一役を果たした。</p>	
改善すべき点	
<p><b>【木梨憲武展】</b>                      芸術の幅が広がってきた現在では、今まで以上に広範囲に特別展を選択することが大切と考える。</p>	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
<p><b>【ギャラリートークについて】</b>                      作家やその関係者のギャラリートークは作品創作時の話や作品にまつわる話が聞けて、より作品や作家に興味を持てる。</p>	
改善すべき点	
<p><b>【ギャラリートークについて】</b>                      内部評価のとおり、録画や実況中継的にライブ配信したりしてより多くの人に内容が伝わるように出来ればと考える。</p>	
3. その他施設等について	
評価する点	
<p>美術館は歴史が古く室数も少なく余裕はないが、せまい場所も展示室として利用している。</p>	
改善すべき点	
<p>室数が少ないから仕方なく展示の入れ替えの間は閉館になってしまうが、民間の施設では極力施設を閉じている期間を無くして常に来場できるように努力していると思う。様々な問題もあると思うが一日も早い新美術館の建設で閉館期間の少ない美術館になることを期待する。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	B
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【堂本印象展】 飽くなき創造への挑戦と展覧会名に入っているように初期から晩年に至る創作の変化、幅の広さを見ることが出来て良かったという声が私の耳に多く届いた。</p>	
改善すべき点	
<p>【堂本印象展】 いつも来館者は高校生や若者が少ない。現在も高校生以下の優遇策を取っているが、未来を担う若者に今以上の優遇策を図ったらどうかと思う。</p>	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
<p>【ワークショップ 夏休み特別企画 日本画の画材にふれてみよう】 あまり身近な日本画の制作過程を子供達が体験する機会が持てたことは、感性豊かな子供達には印象に残る体験になったと思う。</p>	
改善すべき点	
<p>【ワークショップ 夏休み特別企画 日本画の画材にふれてみよう】 募集のキャッチフレーズを工夫したり、SNS等の利用により視覚に訴えた募集をしたらと思う。</p>	

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	C
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【大城貞夫版画展】 作家の創作の軌跡のみならず、浜松の文化活動やそれに携わった人たちの足跡にも触れることが出来、興味深かった。</p>	
<p>【上村松園展】 見ごたえのある展覧会だった。美人画の切り口で装飾工芸品も展示したことが、一層、画に対する理解を深めたと思う。</p>	
改善すべき点	
<p>【上村松園展】 松園展受賞作家の展示はやはり中途半端感が感じられた。距離的に遠いこともあり難しいこともあるが、秋野不矩美術館で松園展受賞作家展を行うなどの2館共同企画展も遠方からの集客などを考えると必要かと思う。 子ども向けのキャプションも用意されていたがもう少し平易で楽しい表現であってほしいと思った。小学校の団体鑑賞が多かったということなので、少し残念。</p>	
2. 教育普及活動について	
改善すべき点	
<p>【ワークショップ】 ガラス絵ワークショップ、アニメのセル画やプラ板工芸なども、ガラス絵の範疇に収まると思うので参加者が楽しめる企画を考えてほしいと思う。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	C
1. 展覧会について	
評価する点	
【堂本印象展】 大変見ごたえのある展覧会だった。最近はやouい人たちにも日本画に対しての関心が高まっているので、今後も良い企画を期待している。	
2. 教育普及活動について	
改善すべき点	
美術館内にスペースがないため創作ワークショップはやりづらIと思う。鑑賞ワークショップなどの企画も必要かと思う。また、近隣の教育機関へのアウトリーチなど考えてほしい。	

■ 令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	D
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【上村松園展】 松園の作品を多数浜松で公開できたこと自体を評価できる。内容の濃い美人画が浜美で鑑賞でき、有意義であった。</p>	
<p>【木梨憲武展】 遊び心があふれていて憲武ワールドを身近に感じられて良かった。来館者も多く、アートを生活の中に取り入れていききっかけとなる展覧会となった。</p>	
<p>【スーパーリアルワールド展】 浜松市出身の作家、石黒氏・斎藤氏のスーパーリアルの世界は圧巻であった。</p>	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
<p>それぞれの展覧会に合わせてギャラリートーク・講演会・ワークショップなど充実した取り組みができたと思われる。</p>	
改善すべき点	
<p>今後、コロナ禍でも活動できる内容を精査していく必要があると思う。</p>	
3. その他施設等について	
評価する点	
<p>リニューアル後の展覧会が充実してきていると思う。</p>	
改善すべき点	
<p>年間チケット・複数館共有チケットなどの導入はどうか。</p>	

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	E
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【上村松園展】 優雅で美しい松園展は誰もが「観たい」という気持ちにさせた。(下絵等の展示・ギャラリートークと講演会)</p>	
<p>【木梨憲武展】 本人の意外な面が分かり驚きと感動だった。</p>	
<p>【スーパーリアルワールド展】 「写真よりリアルである」など考えもしなかったが、それを実現できて感心した。また、浜松の作家である事がよかった。</p>	
改善すべき点	
<p>知名度の高い人の来館はスナップ写真でもよいので受付等に置いて宣伝した方がよい。</p>	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
<p>ギャラリートークは作品をより理解できるため、回数が多くよい。ワークショップもそれぞれ考えられている。オリジナルペットボトルを作ろうは参加者が多くよい。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	E
1. 展覧会について	
評価する点	
【堂本印象展】 飽くなき創造への挑戦。この言葉によって画家の創作過程が分かりやすくなりぴったりの言葉であった。	
改善すべき点	
創作の過程をもっと分かりやすくするために、作品を年代別に色分けした方がよいのでは。	
2. 教育普及活動について	
評価すべき点	
広い敷地にも関わらず、監理が行き届いている。	

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	F
<b>1. 展覧会について</b>	
<p>令和元年度の「上村松園展」、「木梨憲武展」、「スーパーリアルワールド展」は、バラエティーに富み、それぞれが市民に美術鑑賞の楽しさを教えてくれる素晴らしい企画だったと思います。浜松城公園の充実や無料駐車場などとの相乗効果を発揮して、浜松の文化エリアの中核としての浜松市美術館の存在感がこの数年着実に高まってきたと感じます。その結果として過去最高の来館者を獲得したことも特筆すべき事と考えます。</p> <p>反面、昨年度は残念ながら中止となってしまいましたが「新収蔵品展」など、浜松市美術館独自企画も同時に重要な課題となってくると感じました。浜松市美術館が市民に何を提供するかを考える時、昨年度の3つの展覧会の構成は市民に多様な美術鑑賞の場を提供するという意味では興味深い試みと感じました。芸術享受の地域格差是正の試みとして、様々な制約がある中でこの様に多様な展覧会開催の方向性は意味のあるトライアルと考えます。</p> <p>その中で、特に興味深く拝見した「木梨憲武展」について少しコメントいたします。</p> <p>過去最高の来館者と伺いましたが、奥さんに連れられたご主人など普段は来館されない層にまで浸透した展覧会だったと会場でも感じました。現代美術の展覧会としては、テーマ(花、街、アウトリーチ)と展示がシンプルで分かり易く、作品を観ていても描く楽しさが伝わってくる内容でした。</p> <p>私は、アートセンターの仕事をしていますので、アーティスト・イン・レジデンスなど現在進行形でその場で作品制作しているアーティストと関係することが多いのですが、美術館とアートセンターの違いは何かと考える時、過去完了形の美術館(アーティストにとってはI had made that.)と現在進行形のアートセンター(I am making this.)の違いがひとつあると思います。現代美術を観る時にも同様の視点があると思いますが、木梨展を観ていると「現代美術は描いたもの勝ち(価値)」である、描く楽しさをストレートに感じました。そう言った意味では、一昨年度の「北野武展」に続いて浜松市美術館の展覧会の方向性を考える良い企画だったと思います</p>	
<b>2. 教育普及活動について</b>	
<p>市展を拝見して、非常に熱心に創作活動に取り組んでいる市民が多く居ることに感動し、その作品も素晴らしいと感じました。市展は市民の芸術活動の大切な拠点であると改めて感じたのですが、一方で表彰式についてはもう少し改善したほうが良いと思いました。出展者が毎年同じ顔触れということも一因で現在の様な形になっているのかも知れませんが、名誉な授賞式の数少ない機会ですので、会議室での質素な表彰式ではなくもう少し演出と、同時に受賞者間あるいは市民との交流の場を設けても良いのではないかと考えます。さらに、市長大賞が授与されるのですから、文化芸術への関心をアピールするためにも、お忙しいとは思いますが市長自ら表彰されるのが良いのではと思います。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	F
1. 展覧会について	
<p>昨年9月以降改修休館していましたので、このレポートを書く為にそれ以前の昨年度展覧会を調べようとネット検索しましたが、見つけることが出来ませんでした。秋野不矩を検索する色々出てきますが、美術館情報が極めて少ない事に気付きます。</p> <p>交通の便の悪い全国の公立美術館を調査した論文があり、それによると7割が年間来館者3万人以下で、来館者増などのマーケティングの課題を論じています。秋野不矩美術館もその一つと考えられますが、一方では天竜の地に建つ藤森建築の魅力などハンディをカバーする要素も多くあると思います。</p> <p>今回の評価対象期間ではないのですが、先日改修後初の佐藤美術館収蔵品「花と緑の日本画展」を拝見しました。この数年で最も見応えのある展覧会だと個人的に思いました。展示作品には満足したのですが、やはり何時も感じるのは、作品を鑑賞した後の感動を反芻する場所がない事が残念に思えます。魅力的な音楽堂や美術館、博物館などの周囲には余韻を味わう為のレストランやバーやカフェなどの施設が集まり、その地域一体として雰囲気醸し出しています。残念ながら、秋野不矩美術館の周囲にはそのような施設は何もなく、館内の空間も限られているのですが、館の前庭やベランダを利用した場づくりが出来ないだろうか毎回考えてしまいます。藤森さんの茶室は作品として良いのですが、現実に使える茶室(カフェの様な場)の運営が課題だと思います。</p> <p>また、立地上来館者増は非常にハードルが高いと思いますが、HPやSNSなどを使った秋野作品紹介やイベント紹介などを積極的に展開してアーカイブを充実させ、全国への発信を絶やさない工夫が必要かと思えます。特にコロナ禍では多くの美術館がWEB活用に積極的に取り組んでおり、冒頭に書きました様に現状で検索できる秋野不矩美術館情報に限りがあることは改善の余地が大いにあると考えます。</p>	

■令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	G
1. 展覧会について	
評価する点	
【木梨憲武展】 大胆な発想とユニークな着眼点の心温まる作品が並び、見て良かったと感じた展覧会でした。 大人から子供まで楽しめる内容でリピーターも多かったのではないのでしょうか。	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
子どもの市展として幼・小・中の作品が展示されましたが、美術館に足を運ぶきっかけになったと思います。美術館が気軽に立ち寄れる施設のひとつになるとよいと思います。	
3. その他施設等について	
改善すべき点	
展覧会等で1階と2階の表示を見学する際に、何となく動線が切れる印象を持つことがあります。	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	G
1. 展覧会について	
評価する点	
【所蔵品展】 秋野不矩先生の作品はいつ見ても素晴らしいと思います。	
改善すべき点	
特別展の際にも秋野先生の作品展示をもう少し充実させてもよいのではないのでしょうか。	
2. 教育普及活動について	
改善すべき点	
地元の小中学生が参加できるような企画や子供たちの作品が展示出来ような機会があるとよいと思います。美術館が気軽に立ち寄れる施設になることは美術館の今後にとっても大切なことだと思います。	
3. その他施設等について	
改善すべき点	
先日、美術館を訪れましたが気温が高い中で駐車場から急勾配の坂道を歩いていくのはやはり大変でした。	

■ 令和元年度 浜松市美術館外部評価

委員名	H
1. 展覧会について	
評価する点	
<p>【木梨憲武展】            ギャラリートークの内容からも、芸術のみならず、取り組む姿勢、何事にも面白がってやってみようとする姿勢がうかがわれ、刺激を受けることができとてもよかったという声を聴きました。多くの方が来館された訳が分かります。</p>	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
<p>幼稚園職員の中に、「土曜講座」を楽しみにしている姿があり、今年度予定されていた、「デカルコマニー」が、感染予防のため中止となり残念に思う声が聞かれました。自分とは異なる表現に触れられる機会であり、保育力だけではなく、感性を磨く機会にもなりとても良いと思います。</p>	
改善すべき点	
<p>改善すべき点とは言えませんが、例年行っている、夏休みの地区の教員研修会で、美術館の土曜講座で予定されていたような「デカルコマニー」を体験し学びたいという要望が出ました。            人力的・時間的な課題があることは承知ですが、美術館に足を運ぶまでは…と感じている方・子供に芸術に触れる・楽しむきっかけを作っていることは素晴らしいことだと思います。</p>	
3. その他施設等について	
評価する点	
<p>テレビやバスの車内など、美術館の情報を、目・耳にする機関が多くありました。多くの方に、美術館に興味をもってもらいたい、足を運んでもらいたいという思い、努力がうかがわれました。</p>	
改善すべき点	
<p>浜松城公園は、市内の幼稚園・こども園・保育園の幼児も、年間を通して園外活動に利用しています。その際、公園のイベントの展示に興味を示す姿を目にしました。幼児も楽しめる展示・ワークショップを平日行うことで、休日に親子で美術館を訪れるきっかけにつながるのではないかと思います。</p>	

■令和元年度 秋野不矩美術館外部評価

委員名	H
1. 展覧会について	
評価する点	
【所蔵品展】 展示と併せて、秋野不矩さんについての調査内容をきくことは、新たな見方・発見につながると思うので、ぜひ実現させてほしいです。	
2. 教育普及活動について	
評価する点	
版画は、実際行ってみることで、さらに面白さが増す技法の1つだと思います。子供たちにこうした技法に触れる機会を設けたことは素晴らしいことだと思います。	
改善すべき点	
意識していないと、こうした情報をキャッチできにくいのが現状であり、残念に感じます。	
3. その他施設等について	
評価する点	
施設の外観を目にした時から、日常から離れた空間・雰囲気を楽しむことができます。この施設だから味わえる、楽しめる展示を工夫されているのだらうと思います。	